

会報

No. 66

平成17(2005)年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 762-4655

図書館と私

「岡崎」とのかかわり

同志社大学文学部文学研究科教授
京田辺市立図書館協議会会長

渡邊 信一

『關西文学散歩』(野田宇太郎著、小山書店 昭和三十二年刊)の「府立図書館」の章で、京都同志社が生んだ『十二の石塚』の詩人で聖書学者でもあった、湯浅半月(吉郎)の府立図書館長時代の功績が言及されている。明治四十二(一九〇九)年、彼の時代になって現在の岡崎公園の地に建てられたが、「如何にも落ち着いた文化の殿堂らしい床しさを感しながら、西村館長から色々と半月のことなどをきき、ついで館内を歩いてみた。」とある。五年前に新府立図書館が新築されたが、保存された前面部分から、「岡崎の府立図書館」のイメージはそのまま脳裏にのみがえる。

学生時代、岡崎に通う道すがら書店に立ち寄り、野田氏の著作に遭



遇した。高瀬川や白川のほとりなど、文学作品にゆかりの場所を散策するのに格好の書であった。その中に上述の「府立図書館」の記述があり、人知れず府立図書館員への道を熱望した。当時は就職難の時代で、あまり期待はできなかった。が、多分、推薦校が限られていたことによるものと思われるが、応募者は十名程度で、その中から三名が採用された。そのうち、もともと文工出身のY君は数年後に司法試験を受けて弁護士に、M君は農学部から教育学部に移って司書資格を取得しただけに根っからの図書館人として、府内の館長などを歴任して定年を迎えた。

前述の西村精一館長は、「分館論」で著名で、市内に三分館、府内に六分館を設置、同時に若手の優秀な職員を分館に配置した。私に続く採用組では、U氏(京大教授で定年退官)が宮津地方分館に、N氏(郷土資料館長、のちに京田辺市立図書館協議会会長)は峰山地方分館に、といった具合。私自身、採用と同時に上京分館に勤務。その折、CIE/クルーガー図書館のライブラリアンで

あった同僚Aさんから、廃棄予定の旧蔵書のうち、薦められて頂戴した図書に原田助同志社総長サイン入りの英語大事典があったことを覚えて

いる。その後、伏見分館を経て、本館のレファレンス担当となった。当時は「レファレンスの神様」志智嘉九郎館長の神戸に負けじと上司のN氏(のちに近畿大学教授)やH氏(のちに府立図書館長)と頑張ったものであった。足かけ五年間の府立図書館員時代は、私にとって懐かしくもあり、ほろ苦くもあった青春時代のひとこまであった。

ご縁があつて、今は大学教員として学生を送り出す立場にある。卒業生たちは、あまり現場にご迷惑をかけることなく、一生けんめい図書館業務に励んでくれているようで嬉しい。

開館されて間もなく志賀直哉や有島武郎など、白樺派の美術展の会場として府立図書館が使われ、彼らをして激賞させた府立図書館は、岡崎の地にその瀟洒な姿を現してからあと四年で満百年を迎える。この長い年月の中で、図書館・読書施設は、なくてはならないものとして府内のすみずみまで拡がったが、さらなる発展のために、現職だけでなく、幅広い層からの支援がのぞまれるところである。

平成十六年度

京 岡 連 協 実務研修会

京都府子ども読書活動 指導者研修会

平成十六年十一月二十五日(木)

京都府子ども読書活動指導者研修会を「みやづ歴史の館」を会場に、北部ブロックの実務研修会とも位置付け、開催。府内全域から百九十五名の参加者がありました。

午前は「子どもと物語を楽しむ」物語体験ワークショップの



「試み」と題して大阪国際児童文学館主任専門員土居安子先生の講演、午後は長岡京市教育委員(元大阪国際児童文学館非常勤専門員)北畑博子先生に「ブックトーク講習会」ブックトークの魅力と方法」と題して講義及び実技指導という構成で実施されました。

◎京都府子ども読書活動指導者 研修会に参加して

岩滝町立図書館 瀬戸真由美

今回の研修会では午前の講演、午後は講義及び実技指導と、子どもの読書活動における最先端の取組をされている先生方のお話を伺うことができ、充実した一日を過ごすことができました。

土井安子先生の講演された「物語体験ワークショップ」については、最初私には耳慣れない言葉だったのですが、「ものがたり」を追体験することで人生という「ものがたり」をどうつくっていくのかを知る、これこそが読書という営みなのだという言葉が理解できた気がします。また自分の体で演じることで、コミュニケーションの大切さを感じることがも今の時代に求められているものなのではないかと思いました。

午後の北畑博子先生のブックトークは、子どものみならず大人にも「この本読みたい！」と思わせる魔法がかかっているのではと思えるものでした。この魔法をかけるには、まず魅力的な本との出会いが大切であり、また子どもの関心をひきつける導入やクイズを取り入れるなどの工夫が必要であることを教わりました。会場からも多くの質問が出され、関心の高さが伺われました。子どもを本の世界へ誘う二つの異

なるアプローチの方法を知ることができた研修会で、子どもと本の豊かな出会いの場作りに取り組み参加者にとつて大変有意義なものであったと思います。

中部実務研修会

平成十六年十二月十七日(金)午後、実務研修会(中部会場)を府立図書館を会場に開催。府内から五十八名の参加がありました。

「レファレンスワーク再入門」インターネットも使いこなす」というテーマで、国立国会図書館関西館で参考係として御活躍されている柴田容子氏の講演、その後、研究協議として各館の状況などの情報交換が行なわれました。

◎実務研修会(中部会場)に参加して

京都府立総合資料館 大澤 周子

平成十六年十二月十七日(金)府立図書館において中部ブロック実務研修会が開かれ、国立国会図書館関西館の柴田容子氏を講師にお迎えして「レファレンスワーク再入門」インターネットも使いこなす」というテーマの研修がありました。

府立総合資料館でもインターネットを参考にレファレンスを行うことがあり、コンピューターに弱い自分

を克服する意味もあつて、ツールとしてインターネットを知りたいと思いで参加しました。

講義の中でお役立ちサイトが三十余りも紹介されましたが、その中でも研修を受けた当館職員の中で「これは」と思われるものを、いくつかここで挙げてみます。

- NACSIS WEBCATでの前方一致検索には「*」が必要。
- 日本法令索引では略称や通称でも正式な法令の名がわかる。
- 国書総目録のWEB版である国書基本データベースはまだ書誌情報のみだが今後に期待できる。
- 国文学論文目録データベースは作品名、作者名の他、翻刻検索などできる、等。

また使い方ではNDLIOPACの件名索引の際には「/」をとると完全一致にならずにすむ。

などサイトによって微妙に異なる「コツ」があるということも勉強になりました。図書の場合でも、辞典や参考図書の類は「使い方」「凡例」や「総索引」を見てからの方が実はきちんと探せるという「急がば回れ」の発想と同じだと思います。

ちなみに、当館職員が発見した「お役立ちサイト」をご紹介します。
 ・神田古書店連盟の「和暦変換」
 西暦↓和暦、和暦↓西暦の変換、干支による年号の検索が可能。

◎全国図書館大会に参加して

京都市中央図書館 仲田 義明

全国図書館大会に初めて参加しました。

初日の基調報告では、現在の図書館が直面する問題として、子ども読書活動の推進、厳しい予算運営、IT化への対応などが挙げられていました。これらは当然のごとく、わが市においても同様の状況になっておりますので、意気込んで翌日の分科会に臨んだわけです。

私が参加したのは、第一分科会『 α で変える』で、分科会は「インターネットを使った図書館サービス」です。

大串夏身氏の講演は、レファレンスにおけるインターネットの優位性だけでなく、紙情報の必要性をも併せて説いたもので、非常に有益なものでした。また同時に、インターネットの問題点も提示され、これらは人まかせ、もしくは国まかせにするのではなく、公共図書館に携わる我々ひとりひとりが共に考え、解決していかなければならないのではないかと感じました。

引き続き行われた講演で、講師の常世田良氏は大串氏とはまた違う視点ではありますが、同様にデジタル情報と紙情報を併せ持つハイブリッド型図書館の必要性を説かれました。

また浦安市と岩国市で実施した図書館利用者調査の結果から、問題解決のために図書館利用する人が増えていることを指摘されました。そして個々の利用者が抱える問題とは、普段の生活に関わるもののみならず、就職、起業など多岐にわたり、究極的には「私の人生をどうすればよいのか？」というものにまで広がっていくとし、図書館ならこれらをワンストップで解決させることができるかと話されました。つまり、個人がある決断を下すために専門的に特化した窓口をいくつも回らなければならぬ場合があるが、あらゆる情報が集積している図書館でならその必要はないというものです。

次いで常世田氏は近年の米図書館について、「米国の活発なネットワークは公共図書館のインフラと連動している」「デジタルデバインドを克服したその基礎があつて、先端のネットワークで活力が生まれる」「家にパソコンが無くとも図書館に来ればインターネットが使える」等、図書館情報が米社会に定着していることを紹介されました。

低迷する日本社会で、必要な情報

が必要とする人にきちんと届いているのかどうかを考えた時、公共図書館以外にその役割を担う施設がないということに気づきます。そしてこれらに対応するために、今我々は何をすべきかを改めて考えていきたいと思ひます。

近畿公共図書館

協議会研究集会

◎平成十六年度 近畿公共図書館協議会研究集会に参加して

久御山町立図書館長 小山 豊嗣

平成十七年一月十三日、大阪府立中央図書館において、約百四十名が参加して開かれた。今回は「図書館経営の原点を問いなおす―公立図書館のアウトカム（成果）とは」を研究主題とし、講演・事例発表・研究協議の日程が進められた。

最初に、「図書館の行政評価と経営戦略―NPMの視点から―」と題して、大阪市立大学大学院の永田潤子助教授から講演があつた。行政経営とNPMの基礎、行政評価の意義と役割等の重要性について話され、図書館経営に携わる者として大変参考になった。

次に事例発表では、「滋賀県の図書館行政について」と題して、県公共図書館協議会竹島昭雄会長から話があつた。この二十年間で県内公共図書館の設置数が約七倍、蔵書数・貸出冊数は約十倍に伸びた要因等について説明された。

二つ目の事例発表「ビジネス支援など新たな図書館サービスの展開について」では、大阪府立中之島図書館の前田章夫課長から話があつた。ビジネス支援を始めた背景、実施までの経過と取り組み、現状と課題等について説明された。

最後に研究協議では、次のような意見がだされた。①滋賀県の飛躍的発展の要素には、県の強力なバックアップと、住民に親しまれる図書館を作るための各館の努力があつたこと。②ビジネス支援では、多様なニーズに対応した資料・機能の拡充が必要であること。③行政評価のねらいは、ムダの除去・職員の意識改革・住民理解の向上にあり、指定管理者制度の検討には、NPMの考え方を生かし、財政効率面のみを先行させないこと、等である。

図書館経営は今、厳しい財政状況下にある。それを乗り切るためには、図書館経営のあり方を我々担い手の立場から問い直すことが重要である。本会はその認識を新たにすることが重要な機会となった。

ブックスタート

〜絵本を通じた子育て支援の取り組み〜

＊福知山市立図書館の取り組み

福知山市立図書館 木ノ下典子

福知山市では、乳幼児期から本に親しみ、絵本を通じて親子のふれあいを深めてもらうことを目的に平成十五年四月より、ブックスタート事業を実施しています。以前は、市民課で出生届時にお祝いとして生花やドライフラワーがプレゼントされていました。平十四年度からはドライフラワーに替わって絵本がプレゼントされるようになり、その延長線上の事業としてブックスタートが始まりました。

ブックスタート事業は、「健康推進課」、「図書館」、「読み聞かせボランティア」の三位一体の取り組みとなるため、本市では、健康推進課が窓口となつて図書館と連携し、まず読み聞かせボランティアの組織作りを行いました。次の準備段階では、この三者がブックスタートについて理解を深め、目的の共有化を図れるように「NPOブックスタート支援センター」(現



在「NPOブックスタート」に改名)から講師を招き、研修会を持ちました。(現在も年に三〜四回研修を含めたブックスタート会議をもっています。)

このような経過を経てその後、改善を重ね、現在は、市保健センターでの月二回の四か月検診時に読み聞かせボランティアの方から個別に絵本の読み聞かせをしてもらい、最後に図書館員がメッセージを伝えながらブックスタートパックを手渡すという、ブックスタート本来の形で実施できるようになりました。しかし、毎月七十〜八十組の親子が対象となるため、プレゼント用絵本は一冊、おすすめ絵本リストは全くの手作り：と、今後より充実させていくための予算獲得の問題等、まだまだ課題は山積みです。

ただ、有り難いことにこの事業を始めてから、乳幼児連れのお母さんの図書館利用が増え、ブックスタートが図書館PRのひとつの場となっていることを実感しています。また、ブックスタートを通して、社会の中で孤立しがちな若いお母さんたちの子育てに対する不安の大きさを目的の当たりにし、本と人とを結びつける役割に加え、本を介して人と人をつなげる役割が図書館に求められていることも実感しています。こういったことから、平成十七年一月

より、月一回の「たのしいおはなし会」に加えて、ブックスタートのフォローアップ事業として〇歳〜二歳までのお話会「えほんのへや」を開設し、家庭の中で絵本が親子のコミュニケーションを豊かにするため道具となることを願って絵本の楽しさを親子で味わってもらえるようにと現在、内容の検討を重ねながら進めているところです。

以上ささやかな取り組みですが、今後も利用者のニーズに応えながらより一層、図書館が市民のみならずにとつて親しみやすく身近なものとなるよう努力していきたいと思っています。

インターネット予約の経過について

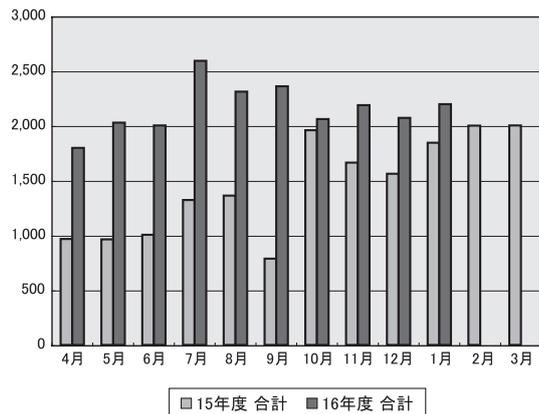
〜予約件数が大幅に増加〜

＊長岡京市立図書館の取り組み

長岡京市立図書館 三谷 千里

当館でのインターネット予約は、昨年度(平成十五年度)十月からの実施で、現在一年五か月が経過し、予想を上回る利用の多さに職員一同嬉しい悲鳴をあげている毎日です。平成十五年十月に開始したのは、この時期がちょうど図書館システムの更新にあたり、システムを一新すると共に、利用者にとってより便利な図書館を目指し実施しました。

予約数を比較すると、平成十四年度と平成十五年度の四月〜九月は約一一〇%の伸びに対し、十月〜三月は約一八〇%の伸びです。



又、平成十五年度と平成十六年度の四月〜十二月は約一九〇%の伸びとなっております。

長岡京市においては、潜在的な要望があったと思われる地域性と合ったのか、前述のように予約数の飛躍的な伸びとなっております。

現在多くの図書館がホームページを立上げ、図書館からの情報の発信を試みており、今後も利用の伸びが考えられますが、それを支えていく資料の充実がますます問われるのではないかと考えます。

＊右の図は平成十五年度及び十六年度(二月まで)の予約数

図書館ボランティア研修会

＊宇治市中央図書館の取り組み
宇治市中央図書館 笹田 保治

宇治市図書館に登録しているボランティア団体は、『おはなしたまてばこ』や『本の修理ボランティア』など、現在全部で七団体あり、図書館の行事や各取り組みに参加をしています。そのひとつ『宇治の語り部・かわせみ』は、平成十四年に図書館主催のボランティア養成講座から生まれたサークルで、地元の民話を語り継いでいく活動を続けています。その活動の対象は小学生から高齢者まで、幅広い年齢層に広がっています。

最近、自分の知識や能力を生かして社会に貢献したいというボランティアが増えています。活動する上で、図書館はボランティアを補助的な関係と見るのではなく、よきパートナーとして協力し合うという「協働」の立場で連携していくことが、両者にとって、あるべき関係の基本であると考えています。

そのためには、図書館は各団体への情報と活動の場を提供し、そして、その活動の継続と充実を図るために、幅広い知識と技能習得の機会を提供することが必要と考えます。

そこで、宇治市図書館では平成十四年度から、すべての図書館登録のボランティア団体を対象に研修会を実施しています。これまでに、「子どもと本の出会いの大切さについての講演」、また、「ブックトークや読み聞かせの具体的なやり方等についての研修」を行ってきました。そして、今年度は、三月二十四日に、「楽しめる紙芝居の演じ方と魅力あるおはなしを語る方法についての研修」を行う予定です。



しかしながら、各団体の活動分野が異なるために、その時々々の研修がすぐに活動に結びつくとは限りませんが、各種の研修を通じての幅広い知識と技能の習得が、ボランティア全体のレベルアップとなるよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。

平成十三年五月、総合資料館文献課は、約半数の図書を府立図書館に移管し、京都に関する資料、日本の歴史・美術工芸・伝統芸能等に関する資料、官庁資料、貴重書等の和漢籍等を所蔵・提供する施設として再出発したことは皆さんご存じのこととお思います。

その再開館からもうすぐ四年が過ぎようとしています。K i l i b n e tでの目録公開や貴重書画像のインターネット提供等、以前の文献課とは様変わりした部分もあります。が、京都に関する専門資料館という再開館時の考えを発展させるにはどうすればよいか模索中の毎日です。

そのような中で、ここでは展示について少し御紹介したいと思います。

二月十六日から三月二十日にかけて「京の商い」『京』ブランドの今むかし」と題した企画展と記念講演を開催します。この展覧会は、館蔵資料を用いて、「京」ブランドが成立した背景と歴史を紹介しようとするものです。文献課には、貴重な古典籍や戦前の府内行政機関刊行物があり、今回の展示でも、京野菜・

再開館からもうすぐ四年
総合資料館文献課の近況
府立総合資料館文献課 西村 隆

京菓子・宇治茶・黒谷和紙・丹後縮緬などを紹介するのに役立っています。

古典籍を含めた古い文献は、書庫から出納はしているものの、通常はその内容について詳細に読み込むことは少ないものです。しかし、展示などで内容に触れ、新たな発見をすることは少なくありません。職員すべてが古い文献を読みこなせる訳ではありませんが、展示の過程で得た知識も含めて、京都に関するレファレンスなどに役立てることができればと思っています。そして、これらを通して加盟館の皆さんのお役に立てればと思っています。

会報六十一号の巻頭言で、当時の吉池館長は「関係機関との連携をもっともつと密にしたい」と書いています。連携を密にすることはどういうことか、京図連協の加盟館、そして府民の皆さんにどのように役に立てるのか、これについても模索が続きそうです。

今回の展覧会については、本号を読まれる頃にはすでに会期末となっていることが残念ですが、総合資料館では、毎年二回程度の展覧会と数回の講演会を行っています。時期が合えばみなさんも一度覗いてみてください（なお、展覧会の詳細については、『総合資料館だより』No.142を参照してください）。

平成十六年度第三回理事会

平成十六年度第三回理事会が、二月四日(金)府立図書館において報告・協議等が行われました。

山本会長挨拶の後、今年度事業実施状況等について、○子どもゆめ基金事業○子ども読書絵てがみコンテスト○京都図書館大会○府図書館総合目録ネットワーク○図書館・読書施設等職員研修○各専門委員会活動状況等についてそれぞれ報告されました。併せて府立図書館から、連絡協力車の巡回コース変更(案)が説明されました。

つづいて、○今年度総括○次年度事業計画及び予算(案)○「府図書館総合目録ネットワーク」の更新○「雑誌・新聞総合目録」の構築等について協議されました。

中でも子どもゆめ基金事業は、会場の宮津市教育委員会をはじめ多数の方々に協力を得て成功裡に開催できたこと、また次年度は南部ブロック(城陽市)で開催することで了承を得ました。併せて、定期総会を四月二十一日(木)に開催する方向で進めることとなりました。

最後に、各ブロックの活動状況を報告いただきました。

新任図書館長紹介

加茂町立図書館 川西 陽子 (敬称略)

台風二十三号被災図書館(室)から

御支援御協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

宮津市立図書館(10・27)

舞鶴市立西図書館加佐分館(11・2)

加悦町中央公民館図書室(11・2)

大江町立図書館(再開へ向け努力中)

(注)内は再開日

専門委員会ニュース

◎ 研修研究委員会

「京都府子ども読書活動指導者研修会(兼・北部地区実務研修会)」の報告

十一月二十五日(木)に宮津市に於いて開催、百九十五名参加の会場は講師の講義と実技指導で熱気あふれるものとなりました。

「中部地区実務研修会の報告」

十二月十七日(金)に府立図書館に於いて、「レファレンスワーク再入門」インターネットも使いこなす」をテーマで五十八名が参加して開催されました。

◎ 相互協力委員会

平成十六年度の「拡大相互協力委

員会」が十二月十五日(水)、府立図書館において開催され、主にシステム更新について協議がなされた。

最初に「K-I-L-I-B-N-E-T」の検索システム」について府立図書館から説明があり、それを受けて各図書館からの質疑と応答、協議が行なわれた。

次にインターネットを利用した図書「とり寄せ」及び「予約サービス」についての説明がされたが、この件については、参加館から様々な問題が提起されたので、引き続き検討することとなった。

三番目に市町村アンケートに基づくK-I-L-I-B-N-E-Tの改善及び削除する機能についての説明と質疑・応答があった。最後に『雑誌・新聞総合目録』の考え方について説明がなされ、概ね了解された。

その他、滋賀県が実施している県内一冊のみの所蔵資料に対する保存方法について、また、向日市では相互貸借専用の袋が用意されたとの報告があった。

【平成十六年度拡大相互協力委員】

上田まゆみ(京都市中央図書館)

芦田 穂子(向日市立図書館)

山中真理子(城陽市立図書館)

尾上日出丸(八幡市立八幡市民図書館)

山下真佐美(木津町中央図書館)

石川 佳奈(山城町立図書館)

北 美智子(和束町体験交流センター図書室)

大西 敏之(園部町立園部中央図書館)

広瀬 滋子(八木町立郷土資料館図書室)

河田美奈子(舞鶴市立西図書館)
櫻井真由美(夜久野町教育文化会館図書室)
木村 眞理(野田川町中央公民館図書室)
瀬戸真由美(岩滝町立図書館)
藤原恵美子(京丹後市立峰山図書館)
藤原 直幸(京都府立総合資料館)
河原 茂記(京都府立図書館)

◎ 広報委員会

平成十六年度の第三回広報委員会を、平成十七年一月二十日(木)に府立図書館で開催し、会報六十六号の編集等について協議を行いました。

★ 編集子 ★

広報担当として早一年。

お約束しましたとおり、できるだけ多くの館での取り組みの掲載をということで、八館のご紹介をさせていただきました。

ところで、今般の台風で被災された図書館の近況を載せなければならぬ状況となりましたが、館員全員が元気に頑張っておられるとのこと。

今後とも加盟館のつながりをより深め、互いに力を合わせて図書館の発展に努めなければ、という思いで一杯です。

最後に一同、折り返し点を境に、更に充実した広報誌作りに頑張りますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。